

成長の実感と感謝の思い

福岡県

須恵剣友会

小学6年 稲永蒼彩

たくさん泣いて、たくさん笑って、たくさん悔しがって、たくさん喜んで、そしてたくさん経験積み重ねて、成長した今の私があります。

私は、お父さんの影響で小学一年生から剣道を始めました。最初の頃は、一緒に始めた仲間や道場の先輩たちとの時間が楽しかったのを思い出しますが、学年が上がるにつれて試合で思いどおりにいかないことや、厳しい稽古に泣いてしまうことがあったことも思い出します。そんな時、自分の励ましになっていたのは、道場の仲間や他道場のライバル（仲間）でした。厳しい稽古と一緒に乗り越えたり、緊張した試合会場で仲良くしたりと、周りの「仲間」のおかげで笑顔になれた時間があることに改めて気づきました。泣いたり悔しかった時間が、自然とリセットされていたように思えます。

私の道場の先生は、指導の一つとして「あいさつと礼儀」をいつも言われます。低学年の頃は、恥ずかしさから大きな声であいさつや返事をするのができませんでした。その時の私は、どんなことにも「自分から進んで行動する」ということありませんでした。しかし、四年生になった頃から先生の教えを年下の子たちに伝えることがあり、自分の中でも「あいさつと礼儀」を意識するようになりました。そのおかげで、今では大きく変わることができています。自分からあいさつができたり、大きな声で返事もできるようになりました。学校生活ではほめられることが増え、うれしさからいつも笑顔になります。

六年生になって、道場ではキャプテンと大将を任されるようになりました。最初は少し不安でしたが、段々と自信がつき、先生方から「剣道良くなったね」と言ってもらえるようにもなりました。そして最近、また一つ自信を持てたことがあります。それは、大きな大会で堂々と選手宣誓を言えたことです。言い切った後のホッとした気持ちの後は、達成感と自信でいっぱいでした。試合で

は、勝ち負けに対して喜びや悔しさの思いがより強くなったと感じています。チームで力を合わせて勝てたときは最高の気分です。

これまでの自分は、怒られないようにと思って剣道をしていた部分がありましたが、今は違います。素直に、もっともっと強くなりたいです。あきらめずに頑張ってきて良かったです。

「剣道は対人を学ぶことが大切」と言われたことがあります。試合をするにも相手が必要です。稽古も道場の仲間や先生方がいるからできます。他にも、誉めてもらう時は誉めてくれる相手がいます。優しさや思いやりを伝えるときも相手がいるからできます。「対人」の言葉の意味をよく考えたことはありませんでしたが、コロナ禍の制限からいろいろなことが戻る中「人との関わりや相手を感じ取る（意識する）こと＝対人」というように思えてきました。このことが剣道だけではなく、剣道以外の成長にも繋がっていたと今は思います。

これまでに剣道を通してたくさんの人と出会えました。その出会いからいろいろなことを学び、剣道でも日頃の生活でも成長してこれたと実感しています。怒られたり泣いたりしても、弱気な自分をいつも乗り越えることができたのは、いつもそばにいてくれた仲間や先生方、そして家族のおかげです。

私が成長してこれた今までを振り返り、感謝の気持ちすべてを言葉で表すのは難しいですが、これからもっと成長していく姿、そして活躍する姿を見てもらい、剣道や生活の「結果」で感謝の気持ちを伝えていきたいです。